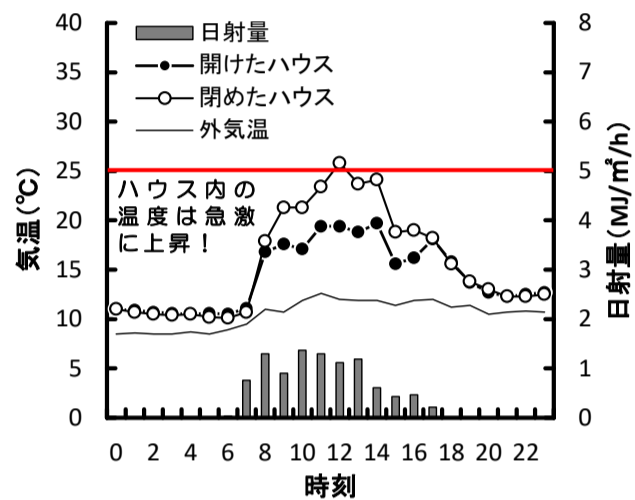


「あおば米」の品質向上のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- ・苗が軟弱徒長とならないよう、育苗ハウスの換気を徹底する
- ・田植機は70株／坪にセットし、適正な植え付けや水管理で初期分けつの発生を促す
- ・基肥は品種や土壌条件に合わせて適正量を施用し、適正な生育へ誘導する
- ・除草剤は使用前に必ずラベルを確認し、遅れずに散布する

1 硬化期の育苗管理～換気を徹底し健苗育成に努める～

- ハウス内温度が25℃を超えないよう換気を徹底する。
(特に、晴天日は早朝から換気する)
- かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水する。(かん水過多は根張りが悪くなるので注意する)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風時はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意して換気する。



曇りでも
日射が
あれば、
ハウス内
の気温は
上昇する

曇り (10.5℃)
9.7MJ/m²/日
日照時間: 0.1h
H27年4月上旬

2 本田準備と病害虫防除～代かきは田植えの3～5日前に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生(除草剤の効き方)に大きく影響するため、耕起や代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
- 代かきは田植えの3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行って、稲わらなどをすき込み、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

< 苗箱施薬 >

JA 購入苗は苗箱施薬済みですので、施用の必要はありません!

| 薬剤名 | 主な対象病害虫 | 散布量 | 散布時期 |
|-------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| ヨーバルプライム EV箱粒剤 | いもち病、紋枯病、 白葉枯病、 イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、 ニカメイチュウ、イナゴ類など | 50g/箱 (1kgで苗箱20枚分) | 播種時(覆土前) ～ 移植当日 |

☆播種前に散布機の日盛を調整し、適量が散布されているか確認する。

☆育苗後の育苗ハウスで野菜を栽培する場合、薬剤散布は必ずハウスの外に搬出してから行う。

※播種時や育苗ハウス内で散布した場合、その後ハウス内で栽培する野菜に農薬が残留するおそれがあります。

3 カメムシ対策(第2回)～カメムシの餌となる雑草を減らす～

- カメムシが好むイネ科雑草を減らすため、水稻周辺だけでなく畑作物・牧草等の周辺も含めて雑草対策を行う。
- イネ科雑草は春先から秋まで様々な種類が発生し続けるため、イネ科雑草の穂が出る前に除草剤の散布やこまめな草刈りを行う。
- バスタ液剤やザクサ液剤などの茎葉処理除草剤を使用する場合は、周辺の農地や作物に飛散しないよう、風の無い時に散布方向・範囲に注意して田植え前までに散布する。



作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう

4 田植えと水管理～適正な「植付け」「施肥量」「水管理」で初期分けつを確保～

- 栽植密度は70株／坪とし、植付本数は3～4本／株、植付深さは3cmに調整する。
- 基肥は、品種や土壌条件などに応じた施肥基準量を遵守するとともに、田植時に施肥量の確認を必ず行う(JAあおば栽培こよみや予約注文書兼肥料カタログの施肥設計例等を参考にして下さい)。
- 田植同時で除草剤を散布する場合は、田面の乾きすぎを防ぐため、ヒタヒタの浅水で田植えをする。
- 活着までは5～6cm程度のやや深水にして植え傷みを防ぐ。活着後は分けつを確保するため3cm程度の浅水にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。

あらかじめ田植機の設定を確認しましょう。

⇒ 株数は70株/坪にセット、掻き取り量は標準よりも「少なく」、植付深さは標準よりも「浅く」設定する。
田植え作業開始時には、目標どおりの植付となっているか確認し、田植え作業中は苗や肥料の使用量を確認しましょう。



【水管理のイメージ】



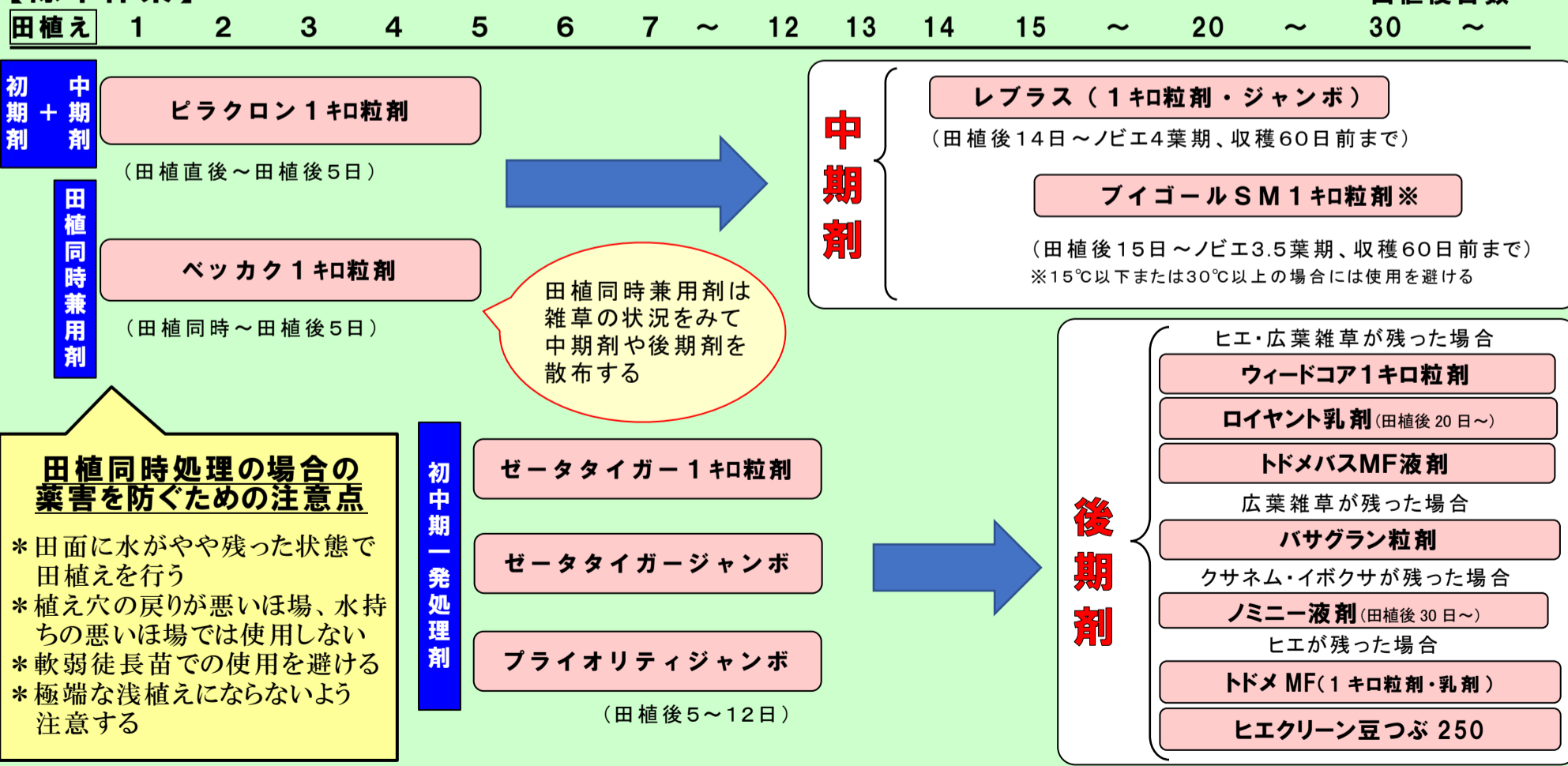
5 除草剤散布～使用基準を遵守し、適期にムラなく均一に散布する～

- あらかじめ畦畔や排水口からの漏水の有無を確認し、漏水箇所があれば手直しする。
- 散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させない。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
- 雑草が多いほ場は、「体系処理」で除草効果をさらに高める。

雑草多発ほ場



【除草体系】



春の農作業安全運動実施中！(3/1～5/31)

安全確認と予防対策で農機による死亡事故を防ぎましょう！